

令和2年度学力向上推進計画

「書く力」「読む力・読み取る力」の育成を軸とする学力向上の取組

亀山市立井田川小学校

I めざす子ども像

自己実現のために、自ら進んで意欲的に学習や生活をする子ども

II 子どもたちの学力や学習・生活の状況等

★は、亀山市の重点項目に関する事項

<学力に関して>

- ★書く力がついてきており、ふり返りも5行以上書けるようになってきたが、「めあて」に正対した内容を書くことに課題が見られる。
- ★資料や文章から読み取ったことをもとにして考えを深めることに課題が見られる。
- ・自分の考えを伝えることや仲間の意見とつなげて発言できることが少ない。

<学習・生活の状況に関して>

- ・決めた課題以外に学習に取り組んだり、自主的に学習しようとしたりすることが少ない。
- ・学年によって、読書量や図書館の利用状況に大きな差がある。
- ・学年が上がるにつれて、オンラインゲームやSNSを使用する児童が多く、生活習慣の乱れやトラブルが見られる。

III 指導改善のための計画（ポイント）

<学力に関して>

- ★「めあて」と「ふり返り」が正対した授業の実施
- ★文章や資料、図表などを正しく読む・読み取る活動の充実
- ・十分な教材研究
- ・基礎学力の定着の徹底

<学習・生活の状況に関して>

- ・学習習慣の改善
- ・学校図書館の積極的な活用、読書習慣の定着
- ・規則正しい生活習慣の啓発
- ・主体性を高めるための自治的活動の充実

IV 具体的な取組

<確かな学力を身につける授業の改善>

- ★「めあて」と正対した「ふり返り」を書くことができるように、単元や1時限でつきたい力を明確にした授業づくりに取り組むとともに、「ふり返り」を書く時間を十分に確保する。
- ★「ふり返り」から、児童の到達度や課題を把握し、次時の指導にいかしたり、手立てを考えたりする。
- ★学習過程の中で文章や資料、図表などを読む・読み取るときには、ねらいとする視点を与え、読んだこと、読み取ったことを書かせたり、伝え合ったりさせる。
- ・十分な教材研究を行い、ねらいに沿った発問を考えるとともに、予想される児童の反応を考え、問い返しや話し合いの場への介入の工夫を行う。

<組織的に取り組む学校体制の確立>

- ・学期1回の研究授業と日常的な授業公開を行い、授業方法を学んだり授業改善につなげたりする。
- ・人権研修を推進し、「なかまづくり」「学級づくり」について学び、安心して学ぶための土台づくりに取り組む。
- ・図書館司書と連携を図り、図書館利用の推進や関連図書を紹介に取り組む。
- ・学習規律や生活のルールについて、全教職員が統一した指導を行う。

<指導力を高める研修の推進>

- ★ノートやワークシート、言語活動などから「めあて」と「ふり返り」が正対しているか、ねらいとする力をつけることができているかなどについて、学期ごとに実践交流を実施する。
- ★教師の指導力、子どもの学力・意欲を高めるための評価活動について学び、日々の授業で活かす。
- ・OJT研修を実施し、授業力の向上を図る。

<家庭・地域との連携の強化>

- ・家庭学習の手引きやノートの手本などを配付し、家庭学習の質を高めることをねらう。
- ・アンケートや調査の結果の公表、成果や課題の共有を図る。
- ・学校ボランティアと教職員が連携を密にし、個別に応じた指導を充実させる。（井田っ子応援団ほめほめ隊、放課後子ども教室学習講座）
- ・地域の取り組みや人材に学び、地域とともにある学校づくりを推進する。